



# 日耳鼻医学会 F A X ニュース NO 174

平成23年3月9日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimu@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

## 来年の4月診療分から電子レセプトに診療行為の年月日を記載

平成22年3月26日付け「診療報酬請求書等の記載要領等について」等の一部改正についてによれば、平成24年4月診療分からの電子レセプトの摘要欄に請求する各点数の算定日をすべて記載することになる。手術点数算定の場合の手術実施月日を記載することは異なる。

外来診療であれば患者が来院した日を記載することになるので、検査の回数と来院回数が一致すれば何日に検査がなされたが推定できるようになる。現行では検査を毎日実施していても回数しか記載されていないので承認されたかも知れないが、来年の4月から算定日が明らかになると検査の必要性が問題になるかもしれない。

この算定日の活用は「規制改革推進のための3か年計画」によると保険者のレセプト審査となっているが、支払基金や国保連でも同様な取扱いとなる。

## 10年度上半期 医療費伸び率は3.9%

耳鼻科診療所入院外は09年度年間伸び率を上回る厚労省は2月2日の中医協総会で10年度上半期(6~9月)の「医療費の動向」を報告。稼働日数補正前の段階での医療費の対前年比同期伸び率は3.9%、10年度改定で大半の財源が充当された医科入院に限ると、稼働日数補正前の医療費の伸び率は6.6%だった。全体の伸び率は09年度の伸び率と比べて0.4ポイント上回った。

医科診療所の入院外を主な診療科別で分析すると、耳鼻科、小児科、皮膚科などで09年度の伸び率を上回る一方、外科、整形外科、内科などは09年度年間伸び率を下回る伸びにとどまっている。(J.M.2011/2/7)

## 医薬品チェックマスターで1億1000万円査定、査定総額の7% 支払基金11月分

「医科診療行為と病名」での査定額は4000万円

支払基金が電子レセプトを対象として審査に導入したコンピュータチェックは、医科では2010年11月審査分から「医薬品(適応と用量、禁忌など)」「医科診療行為と病名」と基本的な体制が整えられた。支払基金がまとめた11月審査分の査定点数は、医薬品チェック1100万点(1億1000万円)、診療行為と病名400万点(4000万円)となり、医薬品チェックが大きな効果を生んでいることが明らかになった。11月分の査定総点数1億5700万点に対しては医薬品7.0%、診療行為と病名2.5%で、やはり医薬品チェックの効果の大きさがわかる。

医薬品チェックによる査定が毎月1億1000万円行われるとすると、年間では13億2000万円にのぼる。これが国保にも及ぶことになると、その効果は合わせて26億円程度となる。

総薬剤費7.8兆円から見れば、わずか0.03%に過ぎないが、医薬品チェックマスターの対象品目は今後も拡大される予定であり、それともなって査定点数も増えていこう。また、こうしたチェックが定着すれば、医療機関側の医薬品使用の姿勢に抑制が働くことも予想される。そうなると、26億円が30億円あるいは35億円という効果を生んでいく可能性もないとは言えない。(Online Medニュース 2011/2/7)

## 今後の会議日程

- 3月13日 平成22年度第6回全理事会
- 5月22日 平成23年度第1回全理事会
- 6月26日 平成23年度定時都道府県代議員会 & 総会

## ダーゼン販売中止

武田薬品工業は2月21日、消炎酵素製剤「ダーゼン」の販売を中止すると発表した。市場で出回っているダーゼンは自主回収する。同社が行った試験の結果、明確な効果を示せず、現在の医療環境で有効性を証明することが困難と判断した。業績に与える影響は軽微という。

ダーゼンは外傷や気管支炎などを緩和する薬品として1968年から販売。2009年度の売上高は67億円だった。

(日経QUICKニュース)

この措置に対し、長崎県保険医協会は武田薬品工業に、きちんと「ダーゼン」の薬効に対する検証を行い、効かないのであれば、その科学的根拠を明確にし、医療現場の納得いく形で継続か販売中止かの決定を下されることを要望するとの、また厚労相に、「ダーゼン」並びに同効の消炎酵素剤の薬効に対する科学的検証対を行い、薬効が無いとされた場合には相応の措置をとり、薬効が否定できない場合には、軽々に承認取り消し等の決定を下されることのないよう要望するとの要望書を提出した。

## 耳の細胞から軟骨再生 東大臨床研究へ

東大の高戸毅教授らは病気や怪我で失った鼻や関節の軟骨を再生する技術を開発した。患者の耳から採取した軟骨細胞を生分解性の素材で培養し、患者の鼻の形に合わせた形や強度を持つ人工軟骨に育てる。マウスやイヌに移植して安全性も確かめた。

鼻の再建ではこれまでシリコンなどの人工材料を使ったりしていたが、骨が硬すぎたり炎症を起こしたりして思うような治療効果が得られなかった。東大の研究チームは口唇口蓋裂の患者を対象に治療を試みる。効果が確認できれば患者を増やした臨床試験を実施する計画。将来は軟骨がすり減る変形性関節症の再生医療にも応用する考え。(日経新聞2月27日)



## 「継続は力 フォーラムに集い更なる団結と飛躍を」

第36回臨床家フォーラムは群馬県耳鼻咽喉科医学会(会長 森喜一先生)が担当して本年8月27日(土)・28日(日)の二日間、高崎市のホテルメトロポリタン高崎で開催される。

 GlaxoSmithKline 生きる喜びを、もっと  
Do more, feel better, live longer

**定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤**

処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

**アラミスト® 点鼻液27.5µg  
56噴霧用**

**Allermist® 27.5µg 56metered  
Nasal Spray** フルチカゾンフランカルボン酸  
エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入)  
**グラクソ・スミスクライン株式会社** グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先  
TEL: 0120-561-007(9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)  
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル FAX: 0120-561-047(24時間受付)

2010.5